



2022年12月吉日

〒473-0922  
愛知県豊田市高岡本町中部 108  
株式会社イデキュー 御中

ご支援者番号: 0194448

謹啓 年の暮れを迎え、株式会社イデキュー様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
平素より国連 WFP の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2020 年以降、紛争、気候変動、新型コロナウイルス、食料価格の上昇により飢餓で苦しむ人の数が増加していましたが、今年はさらにウクライナ戦争により、食料、原油、肥料の価格が高騰し、飢餓への拍車をかけた1年となりました。このような困難な状況にも関わらず、株式会社イデキュー様には国連 WFP の活動を大きくお支えいただきましたこと、深く御礼申し上げます。

株式会社イデキュー様より賜りましたご寄付により、国連 WFP は今年、123 の国と地域で 1 億 5,200 万人を対象に、史上最大規模の展開を目指して飢餓と闘う活動を続ける事ができました。  
株式会社イデキュー様のあたたかいご支援に心より感謝申し上げます。

本来でしたら、直接御礼を申し上げるべきところですが、略儀ながら感謝の意と、新しい年が平和へと続く道になりますよう願いを込めて、2023 年のカレンダーおよびグリーティングカードをお送りいたします。ご活用いただけましたら幸いです。



ウクライナ南東部のドニプロに避難している小学校教師のアナスタシアさんと息子のアーテムくん。突然の戦争が始まって 2 日目の 2022 年 2 月 25 日に急遽自宅から逃げざるを得ず、仕事もなくなり、現在は国連 WFP の支援を受けて生活しています。



イエメン中東部のハドラマウト州の国内避難民キャンプで、国連 WFP の支援を受けるハジャーちゃん(5 歳)。国連 WFP はこのキャンプで小麦、油、塩の食料バスケットを毎月配布しています。

末筆ではございますが、本年中に賜りましたあたたかいご支援に重ねて御礼申し上げますとともに、来る年の株式会社イデキュー様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

謹白

特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画 WFP 協会  
理事・事務局長 鈴木邦夫

# 2022年、皆さまのご支援により アフガニスタンで2,200万人の人びとに 食料、栄養、生活支援を届けることができました。

2022年11月8日時点



1. 食料支援バスケットを受け取り、家族のもとへ持ち帰る16歳のハザラトくん。(北部ファーリヤーブ州)
2. 父親が「小麦バリューチェーン」プロジェクトの支援を受け、笑顔の女の子。このプロジェクトでは、小麦でパウンドケーキを焼く技術を向上し、市場で売れるよう支援することで、人びとの自立を支えています。(南部カンダハール)
3. 食料支援を受けるマハズラさん(48歳)。家までの道が雪でとざされる前に、家族の3か月分の食料を受け取りました。
4. 6か月間の刺繍トレーニングに参加する女性たち(パーミヤン州)。トレーニング期間中、家族は食料を購入するための現金を受け取れます。「干ばつで農業は壊滅状態です。このプログラムは困難な時期を乗り越えるための大きな支えになります」と参加者のシュクリアさんと言います。

しかし、2021年にタリバンが政権を掌握してから一年以上が経ち、かつてない経済危機や、地震、洪水、深刻な干ばつなどの影響でアフガニスタンの飢餓状況は未だ悪化しています。



厳しい飢餓が予想される冬の間、国連WFPは毎月1,500万人に支援を届ける予定です。

極寒の冬を越えるために、ひいては人びとが自立して生活できるよう支援するため、全力で活動を続けてまいります。



バタフシャン村に住む2,000以上の家族は雪でコミュニティーが孤立する前に、5か月分の食料を受け取りました。

アフガニスタンの状況にどうか引き続き  
あたたかいご関心をお寄せいただき、  
ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# ウクライナ戦争から間もなく10か月— 初めての厳しい冬を迎え、終息が見えない中、 皆さまのご支援が笑顔と希望につながっています。



北部チェルニヒウに1歳と5歳の娘たちと住むアリーナさん(27歳)。商品引換券を受け、食料品や衛生用品を購入できました。マイナス20°Cまで下がる厳しい冬を前に、暖房費の高騰によりアリーナさんのような家庭では栄養のある食事を取るか、暖房か、二択を迫られる可能性があります。



南部ミコライウからオデーサに避難を余儀なくされたドミトロさん。現在、国際NGOが提供するシェルターで生活し、国連WFPが支援するパンを被災者に一緒に配っています。



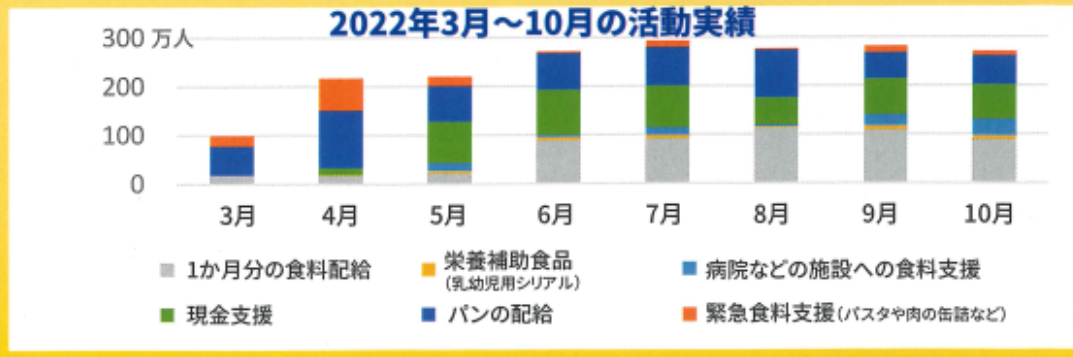
11月、パートナー団体の協力のもと、南部ヘルソンにアクセスできるようになりました。スーパーで空になった棚を利用し、6,000人分の住人の食料を備蓄し、支援を始めています。



8月、ウクライナ戦争が始まって以来初めて、国連WFP向けのウクライナ産穀物を積んだ最初の輸送船「ブレイブ・コマンドー」号が、黒海に面するオデーサ州ユーージュヌイのピフデンヌイ港からエチオピアに向けて出発しました。



瓦礫が散乱する北部チェルニヒウで、バリューバウチャー(商品引換券)を受け取る女性。1枚約13米ドルに値し、1人につき1か月3枚支給されます。



これからもウクライナの人びとに寄り添い、  
現地で活動を続けてまいります。  
皆さまの継続的なご支援に心より感謝申し上げます。